

University of Guam English Adventure Program 2015.9.4 ~ 9.20



2015年グアム大学夏期語学研修報告集

2015年グアム大学夏期語学研修報告集

1. 引率者コメント
2. プログラム概要
3. 個人レポート
4. グループレポート



1. 引率者コメント



2015グアム大学語学研修 ~ほんの2週間で学生を変える

総合科学教育研究センター教授
岡崎 弘信

グアム大学語学研修は、
2011年に初めて実施されてか
ら、今回が4度目となる。

もともとは本学の高階教授とユーセフィアン
元准教授（現京都大学医学研究科教授）により
企画立案されたプログラムであるが、現在では
本学の海外語学研修の大きな柱になりつつあり、
今後の発展が大いに期待されるものである。こ
こでは、今回実施されたプログラムの概要を簡
単に述べたい。

1. English Adventure Program (EAP)

EAPはthe University of Guam(UOG)が提供す
る英語研修プログラムで、日本からは岡山大学、
芝浦工業大学など、韓国からは釜山大学や韓国
外国語大学などアジア各国から多くの学生が参
加している人気のプログラムである。私たちが
参加したのはEAP two-week programで、
English as a Second Language(ESL：第二言語
としての英語)の授業、UOGの学生たちが英会話
の相手をしてくれるConversation Partner、グ
アムの伝統文化をビーチで体験できるCultural
Beach Day、グアムの名所旧跡を巡る
Historical Island Tour、UOGの学生とCulture
Dance やZumba を楽しむFitness Activityなど、
英語のレッスンだけではなく、英語を使いなが
ら様々な体験ができる盛りだくさんなコースで
ある。

2. Project-Based Learning (PBL)

PBLとは本学が大学全体の取り組みとして導入
を進めている「課題解決型学習」（与えられた
課題を解決する過程でいろんな能力を身に付け
る学習方法）のことである。本学のグアム大学
語学研修には毎回PBLが組み込まれ、今年度は
4グループ(図1)がConversation Partnerの
アドバイスを受けながら「人間社会の持続的発
展」に関する課題を英文レポートの形でまとめ
た。かなりの労力が必要なワークであるが、
UOGの学生との真剣なディスカッションは何が
何でも英語を話さざるを得ない環境を作り出
てくれる。日本国内では体験できない、まさに語
学研修の醍醐味である。

[図1]

Sustainable Development (持続的発展)	Food Supply (食品供給)	1. Self-sufficiency (食糧自給)
		2. Food Distribution (食品流通)
	Energy Resources (エネルギー資源)	3. Pollution (環境汚染)
		4. Natural Energy (自然エネルギー)

2015 Guam University Language Study Program ~ほんの2週間で学生を変える

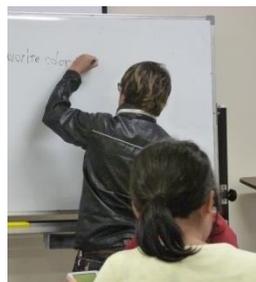
総合科学教育研究センター教授
岡崎 弘信

3. 本学独自のプログラム

Guam University Language Study Program is a user-friendly program for non-graduate students. With the efforts of Professor Nagahashi and other faculty members, EAP is not the only program offered by the university. One of the programs is a lecture given by Professor Johnson, who has been teaching 'Sociology' for many years. The second program is a special lecture and experiential learning at Triton Farm and Marine Lab. The third program is a visit to Captain Henry B. Price Elementary School. While introducing Japanese culture and activities to local elementary school children, it is also a great opportunity to learn English in a natural setting. Most importantly, it is a chance to be healed by the smiles of the children.

以上簡単にプログラム概要を述べてきたが、ほんの2週間の研修期間にこれだけの内容が準備されているのだから、学生にとって決して楽なプログラムでない。しかし、この2週間で彼らの人生にとって、忘れ得ぬ経験になるであろうことは間違いないところだ。今後とも、教職員一体となってさらに充実したプログラムを提供していければと思う。

詳細は学生たちのグループレポートや個人レポートをご参照頂ければ幸いである。



2. プログラム概要

【応募・申込み】

4月上旬に国際交流室から全学部生に向けて「グアム研修参加募集」を通知。16名の募集定員に対して合計22名（秋田11・本荘11）の応募があった。参加希望者は、動機、目的、達成したい個人目標を英作文で書いて提出し、その後の選考面接では英語で発表や自己アピールを行った。応募段階から英語での準備が求められる。

【渡航前オリエンテーション】

5月末に16名の研修メンバーが決定後、渡航前オリエンテーションを二度にわたって秋田Cで実施した。研修メンバーのオリエンテーション参加は必須であり、岡崎教授によるプログラム概要、グループワークの課題等についてのレクチャー、メンバーの自己紹介と、研修中の役割分担が全員に割り当てられた。2回目のオリエンテーションでは、各ワークグループが、研究テーマの事前調査結果を発表した。国際交流室からは渡航準備（パスポート申請、海外旅行保険加入他）、現地での生活面等について指導した。

【期 間】

研修は2015年9月4日から20日の2週間（14泊15日）の行程で行われた。

【滞在先】

レオパレスリゾートグアム
(LeoPalace Resort :Maneggon Hills, Guam
221 lake View Drive Yona, Guam)

過去3回の研修と同様に「レオパレスリゾートグアム」のコンドミニウム棟に滞在した。朝夕の食事は各部屋のキッチンで調理して、共同生活を送る。

【費用】（1人あたり）

- 1) 個人負担
・ 10万円
- 2) 大学の助成
・ 国際航空費
(成田-グアム往復)
- 3) その他費用（個人負担）
・ パスポート申請費用
・ 海外旅行保険
・ 国内旅費
・ 現地食費 等

【旅 程】

- 9月6日 10:00 成田空港第一ターミナル集合
12:55 成田発 デルタ航空290便
17:35 グアム着(現地時間)
- 9月7日～19日 語学研修
- 9月20日 9:00 グアム発(現地時間)
11:45 成田着 解散

【研修報告会】

12月2日（本荘C）、9日（秋田C）で、参加メンバー全員による研修報告会を行った。

2. プログラム概要

【参加メンバー】

キャンパス	学科	学年	氏名
Honjo 本荘	Machine Intelligence and Systems Engineering 機械知能システム学科	3	Yusuke OGUMA 小熊 悠嗣 *Student Leader
		2	Shota MORIKURA 森倉 渉太
			Yuka SAITO 齊藤 由佳
	1	Tomoya SAKASHITA 坂下 友哉	
		Shuntaro SHINDO 進藤 俊太郎	
	Architecture and Environment Systems 建築環境システム学科	1	Kyohei KUBO 久保 恭平
Management Science and Engineering 経営システム工学科	1	Miki SHINOHATA 篠畑 未来	
Akita 秋田	Biotechnology 応用生物科学科	3	Shiori OKI 大木 梓織
			Kanako KIMURA 木村 花菜子
		2	Kohei SAKURADA 櫻田 浩平
			Satoshi MIMURA 三村 怜
	Biological Production 生物生産科学科	2	Ayumi OGASAWARA 小笠原 あゆみ
			Maki KUMAGAI 熊谷 万紀
			Chiaki HIGUCHI 樋口 千晶
	Biological Environment 生物環境科学科	3	Haruka KAKIZAKI 柿崎 晴香 *Student Leader
Agribusiness アグリビジネス学科	3	Yusuke WATAHIKI 綿引 祐輔	

【引率者】

キャンパス	所属	氏名
Honjo 本荘	Research and Education Center for Comprehensive Science (RECCS) 総合科学教育研究センター	Professor / Hironobu OKAZAKI 岡崎 弘信 教授
Akita 秋田	APU International Exchange Office 国際交流室	Naoko SARUTA 猿田 直子 国際交流専門員

2. プログラム概要

【プログラム行程：第1週】

Date	Day 1 Schedule		
9月6日 (Sun)	<ul style="list-style-type: none"> ・10:00 成田空港第1ターミナル北ウィング 集合完了 ・12:55 成田空港発 ・17:55 グアム国際空港着・ホテルチェックイン ・24:00 就寝 		
Date	Day 2 Schedule		
9月7日 (Mon)	<ul style="list-style-type: none"> ・12:00 終日フリー *祝日(Labor's Day)のため No Class ・24:00 ローカルスーパーマーケットへ食料買い出し等 就寝 		
Date	Day 3 Schedule		
9月8日 (Tues)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:30 ホテル発 ・10:00-12:30 オリエンテーション・キャンパスツアー・昼食会 ・12:30-14:30 グアム大学生との協働作業 (グループワーク: 研究テーマの調査) ・14:30-16:30 英語講義: ESL (Berryman講師) ・17:30 ホテル着: 夕食、グループ作業、自由時間 ・24:00 就寝 		
Date	Day 4 Schedule		
9月9日 (Wed)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00 ホテル発 ・9:30-10:30 グアムの地理・歴史・考古学 (特別講義: Kurashina教授 & Stephenson教授) ・10:30-12:00 英語講義: ESL (Berryman講師) ・12:00-13:00 昼食 ・13:00-15:00 グアム大学生との協働作業 (グループワーク: 研究テーマの調査) ・15:00-16:00 グアム伝統ダンスレッスン ・17:00-19:30 チャモロビレッジ ナイトマーケット見学 ・20:00 ホテル着: 自由時間 ・24:00 就寝 		
Date	Day 5 Schedule		
9月10日 (Thurs)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00 ホテル発 ・9:30-11:00 社会学講義 (聴講: Johnson教授) ・11:00-12:00 特別講義: グアムの農業と環境問題 (Marutani教授) ・12:00-13:00 昼食 ・13:00-16:00 グアム大学発 ~グアム大学附属トリトン農園 作業体験 ・17:30 ホテル着: 夕食、グループ作業、自由時間 ・24:00 就寝 		
Date	Day 6 Schedule		
9月11日 (Fri)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00 ホテル発 ・9:30-11:00 英語講義: ESL (Berryman講師) ・11:00-12:30 特別講義: グアム島周辺の海洋生物(CIS: Phillip Cruzスタッフ) ・12:30-13:30 昼食 ・13:40-16:00 CIS (Center for Island Sustainability):ビーチクリーンアップ作業体験 ・17:30 ホテル着: 夕食、グループ作業、自由時間 ・24:00 就寝 		
Date	Day 7 Schedule	Date	Day 8 Schedule
9月12日 (Sat)	<ul style="list-style-type: none"> ・8:00 ホテル発 ・9:00-16:00 野外活動: イナラヤンプライベートビーチ ・17:30 ホテル着: 夕食、グループ作業、自由時間 ・24:00 就寝 	9月13日 (Sun)	<ul style="list-style-type: none"> ・6:00 デデド朝市 訪問

2. プログラム概要

【プログラム行程：第2週】

Date	Day 9 Schedule	
9月14日 (Mon)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00 ・9:30-11:00 ・11:00-12:00 ・12:00-13:00 ・13:30-15:00 ・17:30 ・24:00 	ホテル発 特別講義：4Hアクティビティ グアム大学海洋研究所見学 昼食 特別講義：社会学 (Johnson教授) ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 10 Schedule	
9月15日 (Tue)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00 ・9:30-11:00 ・11:00-12:00 ・12:00-13:00 ・14:00-16:00 ・17:30 ・24:00 	ホテル発 グアム大学付属イスラ美術館見学 特別講義：北マリアナ諸島の歴史 (Moore教授 & Amesbury教授) 昼食 太平洋戦争記念館見学 ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 11 Schedule	
9月16日 (Wed)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-16:00 ・17:00 ・24:00 	グアム島見学ツアー：(グアム政府観光局員帯同) ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 12 Schedule	
9月17日 (Thu)	<ul style="list-style-type: none"> ・8:30 ・9:00-11:00 ・11:00-12:00 ・12:00-13:00 ・13:00-15:00 ・15:00-16:00 ・17:30 ・24:00 	ホテル発 Captain Henry B. Price小学校訪問 (県大生による模擬授業) 特別講義：グアムの観光産業 (Fred Schumann教授) 昼食 グアム大学生との協働作業 (グループワーク：研究テーマの調査) ダンスレッスン (Power Hula/Zumba) ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 13 Schedule	
9月18日 (Fri)	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00 ・9:30-11:00 ・11:00-12:30 ・12:30-14:30 ・15:30 	ホテル発 プレゼンテーション準備 県大生によるプレゼンテーション (日本文化紹介) プログラム修了式、食事会 ホテル着：夕食、自由時間
Date	Day 14 Schedule	
9月19日 (Sat)	<ul style="list-style-type: none"> ・10:00-16:00 ・18:00-23:00 	終日フリー 夕食会 (グアム大学生を招待)
Date	Day 15 Schedule	
9月20日 (Sun)	<ul style="list-style-type: none"> ・6:00 ・6:30 ・9:00 ・12:00 	ホテルチェックアウト ホテル発 グアム国際空港発 成田空港着 解散

3. 個人レポート

1. 大きな財産	機械知能システム学科	3年	小熊 悠嗣
2. 一歩踏み出すこと	機械知能システム学科	2年	森倉 渉太
3. グアム個人レポート	機械知能システム学科	2年	齊藤 由佳
4. グアム語学研修で学んだこと	機械知能システム学科	1年	坂下 友哉
5. 海外体験で得られるもの	機械知能システム学科	1年	進藤 俊太郎
6. グアム研修個人レポート	建築環境システム学科	1年	久保 恭平
7. 語学研修を終えて	経営システム工学科	1年	篠畑 未来
8. グアム研修を終えて	応用生物科学科	3年	大木 梓織
9. 価値ある14日間	応用生物科学科	3年	木村花菜子
10. 大きな経験	応用生物科学科	2年	櫻田 浩平
11. グアム個人レポート	応用生物科学科	2年	三村 怜
12. 挑戦、反省、そして学び	生物生産科学科	2年	小笠原 あゆみ
13. グアム語学研修での思い出	生物生産科学科	2年	熊谷 万紀
14. グアム短期語学研修を終えて	生物生産科学科	2年	樋口 千晶
15. Think Globally, Act Locally	生物環境科学科	3年	柿崎 晴香
16. グアム研修レポート	アグリビジネス学科	3年	綿引 祐輔

大きな財産

機械知能システム学科
3年 小熊 悠嗣



いつかアメリカに行つて英語を勉強したい。昔からの小さな夢だった。私は野球とバスケットボールが好きでよくアメリカの中継を観ていた。英語を好きになったのはその頃からだったと思う。私は今まで海外に行く機会がなかったが、大学3年生である今年が学生のうちに行ける最後のチャンスだと思いこのプログラムに応募した。

正直最初は不安だった。初めての海外で一緒に参加する県立大の学生に知り合いもない。人見知りの自分が2週間も過ごすことができるか分からなかった。しかし終わってみれば2週間というのはとても短い時間だった。

グアム大学の講義は日本の大学の講義とは全く違うものだった。日本は教授が話している時間が圧倒的に長い。しかしグアム大学の講義は教授と生徒が意見を交換しながら進んでいく。教授が質問しなくても積極的に発言し講義に参加する。本来の大学のあるべき姿がそこにはあったと思う。自分も見習おうと思わずつではあったが積極的に発言するようにした。すると発言することにより講義が楽しく、90分があつという間に感じられた。日本で受ける講義と同じ90分でも全然違った。日本でもこの積極性は続けていこうと思う。

グアムの人たちはみんな優しくかった。会うたびに笑顔で挨拶をしてくれたり、自分が言いたいことをうまく英語で表現できなくて困っていても決して笑ったりせずに真剣に聞いて理解しようとしてくれた。相手の言っていることを理解できなかったときはゆっくり喋ってくれたり、簡単な言い回しに直してくれたりした。コミュニケーションを取ろうとしてくれる彼らに応えたくて、自分の気持ちを伝えようと頑張った。

正しい単語や文法ではなかったとしても彼らは理解してくれた。コミュニケーションで一番大事なのは気持ちだということを再認識した。

グアムでの2週間は毎日がとても楽しかった。放課後や休み時間にはダンスを習って一緒に踊ったり、グアムの遊びを一緒に楽しんだ。週末のビーチデイではココナッツキャンディー作りを教えてもらったりカヤックに乗ったりした。フィリピン系の人が多かったので、夕食にフィリピン料理の店にも連れて行ってくれた。とても貴重な文化交流ができた。

この研修で私はリーダーを任された。ほとんど初対面のメンバーをまとめられるか不安だったが指示を出した時には全員が従ってくれ、イベントの計画などの時には協力してくれたので大きな問題もなく終えることができた。また、講義の後や訪問先では、メンバーを代表してあいさつをするなど日頃あまりすることのない様々な経験をした。

私にとってこの研修は本当に貴重な経験だった。言葉にするのは難しいが、参加する前と後では明らかに自分の中で何かが変わった。ここで経験したことはいつか必ず自分の役に立つだろう。研修に参加できて本当によかった。最後に、一緒に参加した他の15人の県大生、引率して下さった岡崎先生、猿田さん、私たちのサポートをしてくれたグアム大学の学生、この研修で出会ったすべての方に感謝しています。



一歩踏み出すこと

機械知能システム学科
2年 森倉渉太



私は人見知りであった。しかし、大学に通いだしてこのままではいけないと思い、このグアム語学研修に参加しようと思った。観光とは異なる視点で海外の雰囲気を感じ、体験することによって、何に対しても消極的だった自分を変えるきっかけになるのではないかと考えたからである。2週間という短い間でどこまで変わることが出来るだろうか。これが私の一歩目だった。

グアムに到着してからの2週間はあっという間に過ぎ去っていった。初めの1週間はInternational Friendship Club(IFC)メンバーとの会話をしっかり理解できない、自分から話しかけられない、自分の気持ちにあった英語がうまく出てこない、不慣れな共同生活などからストレスが溜まり大変な時もあったが、それでも1日1日が充実していてとても密度の高い日々を過ごすことができた。

私は座学が好きではないので、強く印象に残っていることはほぼ毎日あった体を動かす授業、アクティビティーやIFCメンバーとのコミュニケーションである。その中で、私が一歩踏み出すことの面白さを感じたのは、意外にもダンスであった。人見知りの私は人前でダンスなんかしたことはない。ましてそんなことをするような柄ではない。しかし、練習の段階では冷めていた私も、チャモロ・ビレッジに行った夜、みんなで踊ったダンスの楽しさ、高揚感、一体感はとても新鮮で刺激的であった。私が今までに経験したことのない領域に一歩踏み出すためには、後先を考えずにまずやってみることに、余計な恥じらいを捨てることなどが必要であり、この日の夜を境に残された期間でどのように過ごしていかなければならないかを考え、気持ちを切り替えることが出来た日であった。

何よりも記憶に残っているのがIFCメンバーと共にいた時間である。彼らの明るい性格や

優しさが私の恥じらいを取り去り、保守的な私を変える大きな要因になったことは言うまでもない。しかし、彼らとグッと距離が縮まったのは2週目に入ってからだったので、とても後悔している。プログラムの終盤は彼らと過ごす時間が多くあり、共に食事をしたり、話したり、ゲームをしたりする時間は、非常に楽しくまた別れの時が近いこともあり複雑な気持ちであった。彼らからは、優しさ、人との接し方など多くのことを学び、私も彼らのような精神を持つことが出来るように努力しようと思った。

私はこの2週間で何事も自分から進んでやることの重要さを知り、一歩踏み出した先には今まで知りえなかった新たな世界があることを身を以って理解することが出来た。この経験を糧により英語の勉強に力を入れ、将来的にはもっと多くの国の人とも繋がりたいと思った。

最後に、Ray、Conversation partnerだったAngeleenne、Shaica、Cian、またIFCメンバー、そして2週間支えてくれた”Food Distribution”の研究グループメンバーに心から感謝するとともに、これからも長く交流を続けられたらと思います。

Thank you very much and please be my friends for a long time!!



グアム個人レポート

機械知能システム学科
2年 齊藤 由佳



私は「何か新しいことに挑戦したい」という漠然とした思いから、この語学研修に参加しました。そして、不安と期待が入り交じる気持ちでグアムに向けて出発しました。

グアムに到着したのは夕方、空港から外へ出ると日本とは異なった景色が広がっていました。ホテルへ向かうバスの窓から初めて目にしたグアムの美しい夕暮れの景色、海とヤシの木にとても感動したことを今でも鮮明に覚えています。

大学に行くと、IFCのみなさんが私たちのことを温かく歓迎してくれました。緊張してぎこちない私たちに”Don’ t be shy.”と笑いかけながら積極的に話しかけてくれたので、すぐに打ち解けることができました。会話をしていく中で気づいたことは、電子辞書に載っている単語を使っても相手に通じない場合があるということです。その理由は英語にも日本語と同じように類義語が存在していて、各単語によってニュアンスが違うためだと教えてもらいました。私は今まで英語の類義語の区別の必要性について考えたことがなかったので、その重要性に気づけて良かったです。さらに驚いたことは、会社員として働きながらグアム大学で学んでいる学生がいることです。その人たちからはいろんなことを学びたいという強い熱意が伝わってきました。そのうちの一人から「英語を上達させるには、まず外国の文化や考え方を理解するところから始めると良いよ。」と教えてもらいました。今まで単語や文法を暗記することばかり重視していたので、その考え方はとても斬新に感じられました。そして楽しく学ぶことの大切さも学びました。このように会話を通じてお互いの文化や考え方を共有して成長できるところがこの語学研修の魅力の一つだと思います。

課外活動では農園に行ったり、マリン・ラボで海洋生物について学んだりしました。その中でも特に印象に残っているのはアイランドツアーの日です。この日はグアム島の歴史的な名

所旧跡、恋人岬やラッテストーンのある公園、旧スペイン領の跡地などを見学しました。そこにはグアムの歴史に関わる建物が当時とあまり変わらない姿で存在していました。写真は、私たちを案内してくれたガイドのヴィクトリアさんとラッテストーン公園で撮影したものです。ラッテストーンは意外に大きく、何に使われていたのか完全に解明されていないところが謎に包まれていておもしろいと思いました。その他にもグアム大学で習ったグアムの歴史建造物を実際に見て触れて、感じることができました。また、バスツアーのガイドさんが教えてくれた恋人岬や人魚にまつわる伝説はとても興味深かったです。

グアムに着いてからは驚きと発見の連続で、毎日有意義に過ごすことができました。また、貴重な体験を経て人間的に成長できたことが語学研修に参加して得られた大きな収穫だと思います。

最後に、今回私たちを楽しませるために全力でサポートしてくれたグアム大学の皆さんには感謝してもしきれません。本当に色々ありがとうございました。



グアム語学研修で学んだこと

機械知能システム学科
1年 坂下友哉



この語学研修に参加しようと思ったのは現時点で自分の英語がどれだけ通用するのかを知りたかったから、また日本とは違ったグアムの文化や雰囲気に触れてみたいと思ったからです。実際に2週間グアムで過ごしてみて、日本との違いを学びました。

一つ目はUOGの講義の様子です。社会学の講義に参加したときの講義全体の雰囲気が印象に残っています。教授の問いかけに対して学生が積極的に発言していました。まるで会話をしているかのような講義の雰囲気は今まで体験したことがなく、また教授の話の全てを聞き取ることができたわけではないにも関わらずどんどん引き込まれていく講義は、とても新鮮に感じました。さらに教室内に飲み物や食べ物を持ち込めるというスタイルに日本とグアムの違いを感じました。

二つ目はグアムの人々の様子です。UOGの学生は皆フレンドリーでした。彼らのおかげで自分もあまり緊張せずに話をすることができました。またダウンタウンのナイトマーケットには多くの人々が集まり、店を見てまわる人、歌を歌う人、ダンスをする人で賑わっていました。そのダンスには私達も参加しました。初めは人の前でダンスをすることに少し抵抗があったけれど、実際にダンスに参加してグアムの人たちと共に楽しい時間を共有できたことはとても貴重な経験になりました。

私たちの研究グループの課題テーマはNatural Energyについて調査することでした。UOGの学生たち事前に調べた内容を伝えるとより詳しくグアムの現状について説明して

くれ、調査内容をまとめるときにも必要に応じてアドバイスをしてくれました。UOGの学生と協力しながら調査を進めていく中で、事前学習では知ることができなかったグアムのNatural Energyについて知ることができました。その中でも特に驚いたのは日本とグアムの水力発電の考え方が違っているということです。水力発電というと山がたくさんある日本では山間部にダムを作り発電する方法を思い浮かべるかもしれませんが。しかしグアムには山がほとんどないため日本のような方法で水を利用した発電をすることができません。そのため島の周辺の海流を利用して発電する方法を研究しているUOGの学生もいるそうです。インターネットからは得ることができない情報を、UOGの学生から直接話を聴くことによって得るといっては滅多にない経験だったと思います。

グアムの人々と話してみると自分が伝えたいことが相手に伝わらず自分の英語力の未熟さを感じる場面もありましたが、相手とよりコミュニケーションをとりやすくするためにはどうすればいいのかについて考える良い機会になったと思います。今回の語学研修で得た事を今後の英語の学習に役立てていきたいです。



海外体験で得られるもの

機械知能システム学科
1年 進藤俊太郎



本プログラムへの参加は私にとって初の海外体験であり、その目的は語力の向上のみならず、これまで体験したことのない生活を通して新しい視点を得ることにありました。近年のグローバル化により、英語力はもちろん、世界的なニーズや感性の特徴を踏まえたものづくりが求められています。これらを真に理解し、ものづくりの際に適切な選択をして行く力を手に入れるためには、実際に普段の私達とは違う生活を体験してみることが重要だと考えました。本プログラムでは全体を通して Guam 島という小さな島における生活のあり方の一部を体験することが出来ます。

Conversation partnerの時間では Guam 大学生の方々に Guam のことを深く質問することが出来ます。聞き取りやすいよう配慮して英語を話してくれるので、思い切って英語を使っていく良い機会にもなります。この時間には私達が4班に分かれてそれぞれ研究を進める Student Research Report に対し、Guam 大学生の方々からアドバイスしてもらうことが出来ます。私の班では Natural Energy と題して Guam 島におけるエネルギー事情を調査していましたが、事前にインターネットから得た情報と彼らの提供する情報とでは深みが違い、調査を進める上で非常に助けられました。

プログラム中に2回、社会学の Johnson 教授の講義を受ける機会がありました。1回目は Guam 大学生と共に、2回目は私達だけで講義を受けました。私が本プログラムを通して最も感銘を受けたのはこの1回目の講義でした。私が普段日本で受けている講義とは違い、講義室で次々と流れるスライドを使って教授が学生に質問を投げ掛け、学生は指名されてもいないのに各々の答えを述べ、教授はそれを拾って講義を組み立てていきます。学生の積極性だけでも既に驚きを隠せずにいましたが、教

授の聴衆を引き寄せリードする講義にはとても感動させられました。例えて言うならば ステイブ・ジョブズのようなイメージです。

積極性という面では、Guam で出会った誰もが皆、日本人よりも強いと感じました。教授や学生だけでなく、町の人々やバスの運転手の方までもが隙を見つけては話しかけてくれます。結果的に、本プログラムで出会った全ての方が私に刺激を与えてくれたと今では思っています。

最後に、これは本人からの伝言ですが、Guam 大学には Jason . A というこの上なくユニークな学生がいます。来年参加する県大生の皆さんは機会があればぜひ彼に話しかけてみて下さい。



本プログラムに関して支えて下さった全ての方々に感謝してレポートとします。ありがとうございました。



グアム研修個人レポート

建築環境システム学科

1年 久保恭平



私は、英語を話せるようになること、アメリカの大学の雰囲気を感じてみることを目的にこの語学研修に参加しました。

グアム大学ではIFCの学生が私たちを歓迎してくれました。初日のランチは彼らと一緒に食べました。彼らは絶えず話題を考えて問いかけてくれましたが、私はそれに答えるだけで精一杯でした。もっと話したいのに言葉が出てこないのは、とてももどかしく、悔しかったです。しかしIFCの学生たちは、私の話を必死に聞こうとしてくれました。彼らのおかげで間違えることを怖れないで話すことができるようになり、2週間後には簡単な日常会話はできるようになっていました。

社会学の講義に参加する機会がありました。そこでは日本の大学生とグアムの大学生の違いを目の当たりにしました。グアム大学では、大きな教室の前の席からどんどん埋まっていき、教授の話聞くだけでなく、教授と会話をしながら講義を進めているような印象でした。また、私がステージに上がり、みんなの前で発言する機会がありました。とても緊張しましたが、私の言葉一つ一つに頷いたり、笑ってくれたり、反応をすぐに返してくれました。そのおかげで話しやすい雰囲気になり、自信を持って発言することができました。学生が積極的に参加する講義はとても魅力的でした。

私の研究テーマは” Food distribution” でした。出発前にもネットで調べましたが、有力な情報を得ることはできませんでした。グアムの食物の流通はアメリカ本国に依存しているのがとても難しいのです。グアム大学でConversation partnerの時間にIFCの学生たちと一緒に作業しましたが、彼らもまた頭を抱えてしまいました。そこで彼らは、図書館でデータを探してくれたり、教授に

メールで聞いてくれたりしてくれました。そのおかげでレポートを完成させることができました。また、” Food distribution” について彼らと話し合う中で、英語でコミュニケーションをとることに慣れていくことができました。

語学研修のプログラムには様々なアクティビティーが企画されていました。ナイトマーケットではダンスをして、知らない人とも心を通わすことができました。ビーチアクティビティーでは、カヌーを漕いだり、ビーチバレーをしたり、ココナッツキャンディーを作ったり、普段できないことを体験することができました。IFCメンバーの歌とギターの上手さにも驚きました。

私はこの語学研修で、グアムの方々の優しさに触れ、普段と違う講義を受け、とても密度の濃い2週間を送ることができました。グアムで体験したことを、普段の生活にいかしていきたいです。最終日、IFCの学生との別れ際、涙が出てきました。私たちが安全で充実した研修をできたのは彼らのおかげです。本当に感謝しています。大学ではこれまで以上に英語の勉強に力を入れたいと思います。次に彼らと会ったときにもっと話せるように。



語学研修を終えて

経営システム工学科
1年 篠畑 未来



今回の研修では、さまざまな体験に挑戦することが出来ました。

研修が始まるまでの間、とても不安でしたが、グアムの学生たちは皆とてもフレンドリーで、私が話を理解できないでいると、わかりやすい表現に言い換えてくれるなど、とても親切に、温かく接してくれ、なんとか英語で会話をすることが出来ました。彼らの親切な態度のおかげで、学生たちと一緒にご飯を食べたり、一緒にダンスを踊ったりと、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

小学校訪問のプレゼンテーションでは事前に説明の段取りをつけて準備していったにもかかわらず、うまく伝えることができずに自分の英語力の不足を感じた場面もありました。小学生の話す英語はスピードが速くて聞き取りにくく、話しかけてくれた小学生の会話に反応したくても出来ない自分をもどかしく感じました。しかし、私が戸惑っていても構わず子供たちは次々と積極的に話しかけてくれたことは、最も心に残っている出来事のひとつです。

大学の講義では、大学の教授と学生の距離が近く、授業中に学生が積極的に発言していました。講義での英語のスピードは速く、内容を理解することがとても大変でした。また、彼らは進んで自分から前の席に座り、普段の生活だけではなく学習に対する姿勢も意欲的だと感じました。普段私が大学で講義を受けるときは、進んで前の席に座ることもあまりなく、授業内で発言することも少ないので見習うべきだと思いました。

ほかにも、学生との会話では、自分の地元のことについて質問されたときに、もっ

と自分の故郷や日本について詳しく説明できたなら、と思う場面があり、これからは英語の勉強だけではなく日本の文化についても理解を深めて、自分の言葉で故郷のこと、日本について海外と人たちに伝えられるようになりたいと思います。

グアムでは、たくさんのアクティビティを体験することができました。海岸での清掃活動では、海が綺麗だといわれているグアムとは思えないほどたくさんのごみが集まり、観光客を含め、環境に対する意識がまだまだ浸透していないなと思いました。また、アイランドツアーでは、グアムの美しい景色や、歴史を堪能することが出来ました。朝市では、自分からお店の人におすすめの食べ物を聞いたりして、さまざまなローカルフードにチャレンジすることが出来、とても楽しかったです。

私は、今回の研修で、挑戦することの難しさと、重要性を感じ、そして何よりもっと多くの人たちともっと詳しく、たくさん会話をしたいという思うことが出来ました。今回感じた自分の課題点や、学んだことを今後の大学生活に生かしていきたいと思えます。



グアム研修を終えて

応用生物科学科
3年 大木 梓織



私は、大学入学当初に、大学在学中に成し遂げたい目標をいくつか掲げました。その一つが海外留学でした。私は海外へ行ったこともなく、英語、特に英会話には自信がありませんでした。それでも大学生活は、私にとって苦手なことに挑戦できる4年間にしたいと思いました。そして、このグアム研修は私に期待を上回る刺激と楽しさと充実感をもたらしてくれました。私にそれらをもたらしてくれた、グアム大学のみなさんをはじめ、関わってくださった全ての方に感謝しています。

まず、この研修期間であった2週間を振り返ると、最初の1週間は初めての土地での、慣れない共同生活で一日一日をととても長く感じていました。この頃は、早く日本に帰りたというのが正直なところでした。グアムの人々はグアムをととても誇りに思っていて、「グアムはどう？」とか「楽しんでいる？」などと聞かれると心苦しかったことを覚えています。当たり前なことだが、グアムと日本は国が違います。そのため、文化や人々の思想が日本とは異なっていたのです。例えば、グアムで出会う人は、みな元気いっぱい、友好的で、楽観的だと感じました。その上、英語でうまく返すことができない私にとってそれは、戸惑いと自分への苛立ちを募らせるだけでした。

しかし、今なら胸を張って「グアムは人も、土地も、気候も素晴らしい場所です」と言えます。帰国した今となっては、すぐにでもグアムにもう一度行きたいと思うくらいです。このように思えるようになったのは、グアムのことを講義や会話でよく知り、グアムの人とコミュニケーションをとることができるようになったことが一番大きいと思います。だが、ここでのコミュニケーションができるようになったというのは、2週間で私のスピー

キング力が上がったというわけではありません。多少、英語に慣れたこともあります。ここでは私の会話への姿勢の問題、つまり積極性が大きいのです。

“Don't be shy!” “これは、グアムで私たちによく投げかけられた言葉で、私たちの課題ともいえるものです。日本は恥の文化なのだから、しょうがないのかもしれないが、国境を越えてしまえば、それは単に損なものになってしまうだけでした。例えば、私は考えることはできても表現することができません。日本を離れて、表現できなければ何の意味もないと感じました。相手が求めているのは言葉、つまり言語が通じなければ、考えるという過程など相手に分かるはずがないのです。

結局、私はそれを最後まで全て取り払うことはできませんでしたが、今回の研修を通してそれを知れたことや、少し勇気を出して表現したことで楽しさとなり、全体の充実感につながったのでよかったです。そして今後は、今回のプログラムをきっかけに、更なる英語能力の向上と、自分を表現できるようになる、という課題に取り組んでいきたいです。



価値ある14日間

応用生物科学科
3年 木村 花菜子



グアム、と聞いて大体の日本人は観光名所である美しいビーチを思い浮かべるだろう。私もこの研修に参加するまではそのうちの一人だった。しかし、実際に今回の研修で様々な人と話していくうちに分かったことがある。それは、グアムの食糧自給率の圧倒的な低さや観光客増加に伴うゴミ問題、観光産業への依存で他の産業が確立していないことなどである。実はグアムは問題が山積みな地域であるとも言える。その中でも私が最もなんとかしなければいけないと感じたのは、ゴミ問題である。今回のプログラムの一環で大学近くのビーチクリーンアップを行った。遠目から見ると綺麗に見えていた海も実際に浜辺を歩いていると空き缶やお菓子のパッケージ、たばこなどが大量に捨てられていた。グアムに対して美しいイメージを持っていただけに、かなりの衝撃を受けた。UOGの学生に誰がビーチにゴミを捨てているのか聞いたところ、地元の人が多いとのことだった。グアムでは、各家庭や教育機関におけるゴミの分別や捨て方についての指導がまだ不十分なことが理由としてあげられるようだった。その指導が広まっていけばグアムの美しいビーチを守っていけるのではないだろうか。訪れるだけでは分からない、グアムにある問題を現地学生とのディスカッションや、プログラムの活動を通じて直に感じる事ができたことがこの研修に参加して良かったと思える点である。

今回の語学研修で私は自分の語学力の低さとコミュニケーション能力の低さを恥じた。UOGの学生との会話の中で、一度で適切な返事を返せたことはこの二週間で数えられるくらいではないだろうか。また、質問に答えられたとしてもそこから更に会話を続ける、ということがほとんどできなかった。語学力、コミュニケーション能力が不十分なのは今まで私が狭い視野の世界でしか生きてこなかったためである。もし今回の研修に参加しなかったら私は自分の能力の低さに気づかないままだっただろう。

これからは、少なくとも自国についての知識と理解を深め、自分の見解も述べられるくらいの意識を持てるようになりたい。

最後に、最も印象に残ったことはあるUOGの学生が、「君たちは静かすぎる。言語を勉強するときに静かなのはいけない。英語は日本語と違って恥ずかしがっているのは上達しない言語。自分をさらけ出して自分の殻を破らないと英語を習得することは難しい。次に留学するときには一人で英語にさらされる環境に行くべきだね」と話してくれたことだ。確かに、会話が聞き取れないとき、近くの友人に頼ったことが何度かあった。そういう甘さが語学力の向上を妨げているのだと思った。今回の研修は、自分の弱いところや甘さが浮き彫りになり、恥ずかしい思いをすることが多かった。しかし、今の自分の未熟さを知る良いきっかけにもなった。

自分を叱咤していくきっかけとして今回の研修を今後の糧としたい。



大きな経験

応用生物科学科
2年 櫻田 浩平



9月6日から9月20日までの2週間、グアム大学への語学研修に参加した。予めから海外に身を置き英語でコミュニケーションをとってみたいと考えていたが、今回の語学研修は私にとって初の海外渡航であり、緊張と不安も多少あった。しかし実際に参加してみると、研修は素晴らしいものであった。

2週間の研修では、私たち県大生向けに様々なプログラムが用意されていた。中でも印象に残ったものがいくつかある。

一つは、Dr. Johnsonによる社会学の講義を聴講したことである。全プログラムの中で唯一、実際にグアム大学の学生が受講している講義に参加させていただく形式であった。恥ずかしながら授業の内容はほとんど聞き取れず、自らの英語力の拙さを痛感した。ただ、日本よりはるかに積極的な学生の授業態度からは大いに学ぶところがあった。教授が投げかけた質問に対して即座に自分の意見を述べる学生の姿は、私たちの通う大学では見られるものでなかった。普段講義に向かう自らの姿勢が、いかに消極的であるかを強く認識させられた。

次に印象に残ったのは、太平洋戦争記念館を訪れ、グアムにまつわる戦争の歴史を知ったことである。私がこれまで学んできた第二次世界大戦の歴史は日本の視点で解釈されたものだったので、他国から見た戦争の解釈を知ることができたのは大変興味深く有意義であった。日本とグアム、二つの視点から歴史を学んだことで、戦争の現実について、より深く考えることができたと思う。

グアムの環境汚染についての調査では、現地の学生に聞き取りを進める過程で、土壌汚染が最も深刻な問題であることが分かった。ゴミ焼却施設は日本全国に千基以上あるのに

対しグアム島全土には数基のみと少なく、埋め立てによるゴミ処理を併せて行っている。埋め立てられたゴミによる土壌汚染は、実生活に影響を及ぼす域まで達していないが、問題が表面化する前に対策を講じる必要があると感じた。

前述で挙げた他にも、グアムの先住民チャモロ族に関する歴史や風習、芸術から伝統的なダンスまで多彩なプログラムはどれも刺激的で記憶に残るものだった。2週間の全プログラムを通して、グアムの様々な面に触れ楽しみながらも、英語でのコミュニケーションを上達できたことをうれしく思う。いつしか英語でコミュニケーションをとることが楽しくなり、現地の学生に積極的に話しかける自分がいたことは大きな成長だろう。この経験をもとに他の英語圏にも行ってみたい、そこで自分の英語をさらに磨きたい、そう思わせる充実した語学研修だった。最後にこの語学研修に関わってくれた全ての人に感謝して、報告としたい。



Guam個人レポート

応用生物科学科
2年 三村 怜



この語学研修に参加しようと思った理由は、海外を旅したときに英語の必要性をととても強く感じたことがきっかけである。アジアを旅していても、そこで出会うのはアジアの人だけではない。アメリカ、カナダ、アイルランド、ドイツ、イギリスなどからもたくさんの旅人が訪れる。そこではいろいろな国の人とコミュニケーションを取る機会があったが、改めて世界の共通言語は「英語」なのだと感じた。英語力が足りず、コミュニケーションを取ることができなかったことがとても悔しかった。

語学研修では主に二つのことを目標とした。ファーストペンギンになること、そして積極的にコミュニケーションを取ること。皆さんはファーストペンギンという言葉をご存知だろうか。群れで行動するペンギンの中で、最初に海へ飛び込む勇敢なペンギンのことを指す。海には危険が存在し、命を落とす可能性もある。しかし2番目以降は安全が確認された海へ飛び込むので勇気はいらぬ。危険・不安はあるが、1番得るものが多いのはファーストペンギンだと思っている。

日本で講義を受けている際、教授が学生に問いかけることは多々ある。誰かが答えてくれるだろうと、他人事のようにしている自分がいた。このままではいけないと思った。ファーストペンギンになれるよう研修中は、積極的に発言するよう心がけた。間違ってもいいからと、一歩踏み出して発言できたときはうれしかった。

もうひとつの目標は、積極的にコミュニケーションを取ることであった。私は笑顔でコミュニケーションをとるよう心がけた。IFC (International Friendship Club)のメンバーは面白い人ばかりで、会話が非常に楽しかった。しかしその会話に出てくる英語の意味を全て聞き取って理解することはとても難し

かった。しかし聞き取れなくても、聞き直したり、身振り手振りなどの言葉以外の方法でもコミュニケーションが取れることが分かった。

2週間の語学研修を終え、学んだこと、気づいたことがある。ひとつは、勇気を持って一歩踏み出すことである。わかっているだけではいけない、やはり行動に移さなければならない。ファーストペンギンになることの大切さである。

そしてもうひとつ分かったことは、世界の共通言語は「英語」だけではないということ。もうひとつの共通言語、それは「笑顔」。日本、Guam、アジアであっても相手が笑顔なら、自分も思わず微笑んでしまう。「笑顔」というのは不思議なパワーを持っていると感じた。

Guamでの2週間、IFCメンバーをはじめ、たくさんの人と出会った。たくさんの人に刺激、希望、そして自信をもらった。そのおかげで私は成長することができる。出会った一人ひとりからから学ぶことは多い。「出会い」には、人生を変えてしまう程の力を秘めていると思う。

たくさんの人に出会えたこと、たくさんの方に触れることができたこと、これは人生の宝物になると思う。この研修でお世話になった多くの方に、この場を借りて感謝申し上げます。





海外に行ってみたい、という夢は小さい頃からもっていた。しかし、それを実現するにはお金もかかるし、何より自分の英語力では到底できない話だと思っていた。そんなときに出会ったのが、この語学研修である。日本とは異なる環境で暮らす人々と話してみたい、彼らの考え方を学びたい、そして自分の英語がどこまで通じるかを知りたい。私はそんな想いで研修への参加を決めた。

初めての渡航に緊張しながらも無事に降り立ったグアム。いざグアム大学（以下UOG）に行くと、私は早速壁に当たってしまった。現地の学生との歓談の場で、私は自己紹介のとき以外、ほとんど自分から会話を切り出すことができなかったのだ。相手が話す内容は理解できても、肝心の返答が思いつかない。結局、質問されたことに対してつたない英語で答えるだけという状態がしばらく続いた。

だが、そんな私を助けてくれたのは、Conversation partnerのSaleneとMary Janeだった。彼女たちは私たちが解からない単語を言い換えてくれたり、例えをあげてくれたりと、私たちが理解できるよう様々な工夫を施してくれた。おかげで、一週間目の後半には私も積極的に会話ができるようになっていた。

アイランドツアーを始めとして、研修の中で私たちは島の様々な場所を訪れた。大学の実験農場やチャモロビレッジのナイトマーケット、朝市などである。中でも私が最も印象に残ったのは、地元の小学校への訪問授業だった。

受け持つクラスが2クラスから5クラス、担当学年が5年生から1年生へと変更されるなど、直前の変更には私は酷く戸惑った。準備はできたものの、当日になっても緊張は拭えない。何より、子どもたちが受け入れてくれるかが不安だった。

だが、それは杞憂だった。彼らは初めて触

れる日本の遊びをととても楽しんでくれていた。折り紙の内容は思ったよりも難しかったようではあるが、最後には全員笑顔で私たちに「ありがとう」と言ってくれたことが何よりも嬉しかった。別れ際に子どもたちがしてくれたハグの嬉しさはこれからも自分の中に残っていくだろう。

このプログラムを通して、私は多くのことを学んだ。それは決して英語に関してだけではない。

UOGの学生たちには、自分の考えを周りとは共有しようという積極的な姿勢がある。先生が投げかけた質問には即座に返答し、それに対する意見も飛び交う。これは日本の学生が最も見習うべき点であるだろう。自分もった考えはちゃんと価値のあるものであり、それを発信してより磨いていくことが大切なのだと教えられた。

まだまだ書ききれないが、とにかく2週間の語学研修は、私にとっては短くも非常に充実した2週間となった。もちろん反省点も多くある。しかしそれらも含め、ここで学んだことは全て私の糧になるだろう。

現地の学生を始め、関わってくださった全ての人々に感謝を込めて。





今回の語学研修では、普段体験できない様々なことを通してたくさんのことを学ぶことができました。その中でも印象に残ったことを紹介したいと思います。

<共同生活>

グアムでは4人一組の共同生活を行いました。私たちの部屋は3年生2人、2年生2人のメンバーでした。共同生活を始める前、よく知らない人たちと一緒に暮らすのは、お互いに気を使い、疲れてしまうのではないかと心配していました。しかし、家事や食事を行う中で、少しずつお互いを知ることができ、距離を縮めることができました。また、この語学研修のプログラムの中で、私たちはグループごとの研究プロジェクトや、プレゼンテーションの企画、記録係など、様々な役割を持ちました。共同生活していると、誰が今何をやっているのかが分かります。同じ部屋のメンバーが自分の役割を果たすために、夜遅くまで作業をしていたり、悩んでいたりする姿を見て、励みにもなり、同時に尊敬することができました。帰国して学期が始まった今、私はまたレポートやアルバイトに追われる生活をしていますが、つらいなと思ったとき、彼らが頑張っていた姿を思い出すと頑張ろうという元気がでます。

<グアム大学の学生>

グアム大学ではIFC (International Friendship Club) というサークルのみなさんにお世話になりました。私が驚いたのは彼らが非常によく私たちのお世話をしてくれたこと。グループ調査では調査時間以外にもLINEで有益な情報を送ってくれました。グアム島見学ツアーの日は、私たちの昼食のハンバーガーや飲み物を出発前のホテルに届けてくれました。また、学校生活以外にもレストランでの夕食に誘ってくれました。これはIFCのメンバーだけに限ったことではありませんが、グアム大学の学生は自分の行動に自信と責任を持っていました。今まで私はまだ学生だから…と、学生であることを言い訳のようにしている部分がありま

した。しかし、彼らの行動をみて私も自信と責任を持った行動ができるようになりたいと思いました。

<夕食会>

グアム大学でのプログラムを終了した後、私たちはお世話になったIFCのメンバーをホテルの部屋に招待し、パーティーを開きました。食事をする他に、グアムのゲームを楽しんだり会話をしたり、非常に盛り上がりました。私はゲームをやらずにIFCメンバーと話をしましたが、彼らから聞く恋愛観や学校生活の話は、私と共感できる一方、違う考え方もあり、とても興味深く面白かったです。このようにお互いに興味のある会話をしていたときのほうが自分の英語能力が上がったと思います。また、彼らとより仲良くなれたとも思います。とても楽しく貴重な時間でもありました。

私はこの研修の募集ポスターが大学構内に張り出されたとき、参加しようか悩みました。しかし、今は参加して本当によかったと思います。自分の価値観を変えるきっかけにもなりましたし、こうなりたいという目標もできました。素敵な経験をさせてくれたグアム大学のみなさん、一緒に参加したメンバー、先生方に改めて感謝したいです。本当にありがとうございました。



グアム短期語学研修を終えて

生物生産科学科
2年 樋口千晶



私は英語が好きで、他国の異文化にとっても興味を持っています。日本には和食や着物など、様々な文化があります。私は小さいころから英語に興味を持ち、外国人との会話を通して異文化について知ることがとても好きでした。今まで訪れたことのないグアムではどんなことを知ることができるだろう、という思いからこの研修をとっても心待ちにしていました。

グアムでの2週間の語学研修はとても充実したもので、あっという間に過ぎてしまいました。大学の講義ではグアムの歴史や考古学などについて学びました。もちろん講義はすべて英語でしたが、どれも興味深い内容でした。課外活動では、グアム太平洋戦争博物館を訪れたことが特に印象に残っています。太平洋戦争の歴史についてこれまで私が学んだ事は日本側の視点であることが分かりました。しかし今回はアメリカ側が日本についてどのように戦時中のことを報じているのかを知れる、とても良い機会だったと思います。戦時下のグアムについて知らなかったこともたくさんありました。

課外活動のビーチアクティビティではココナツキャンディーを作りました。ココナツの実を割る作業が大変でしたが、皆で協力しておいしく作ることができました。今回の研修では他にも農園実習や、バスに乗って歴史的な場所を訪れるHistorical Island Tourなど、書ききれないほど楽しい課外活動や体験実習がたくさん行われました。また、休日はきれいなビーチで泳いだり、友人と街中に出てショッピングをして過ごしました。グアムのビーチはとても美しく、自然の豊かさを実感することができました。これらのようなグアムで行った活動は、どれも異文化を知るため

の良い経験になったと思います。

2週間のグアム滞在中に、新しい友達がたくさんできました。グアムの人達は皆が笑顔で優しく接してくれて、人間味のあふれるとても良い人達ばかりでした。私が上手に英語を話すことができなくても、IFCのメンバー達は最後まで話を聞いてくれて、皆で会話をしたことはとても楽しかったです。新しく友達になった皆とはこれからも連絡をとりあい、交流を深めていけたらいいなと思っています。

最後に、この研修に参加することに賛成してくれた私の家族と、2週間に渡ってお世話になった引率の先生方、IFCのメンバーの皆さん、今回の研修に関わったすべての方々へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。

この研修に参加して、多くのことを学ぶことができました。今回の貴重な経験を活かし、これからも頑張っていきたいです。



Think Globally, Act Locally

生物環境科学科
3年 柿崎 晴香



私はかねてより「持続可能」な社会について大きな関心を持っていました。

またこの機会を通して秋田と違う環境や文化を体感し、学び、自分の視野を広めつつ、たくさんの人との会話や交流を通して英語力の向上を目指して今回の研修に参加しました。この研修を通して学習面だけでなく実にたくさんのお話を学ぶことができました。

一つ目は、「まずはやってみる」姿勢です。研修の前半は会話で自分の言いたいことをうまく伝えられず、悔しさや恥ずかしで内心落ち込んでいました。しかし、グアムの学生達のどんな事に対しても積極的に楽しそうに挑戦している姿を見ているうちに、失敗を恐れているだけでは時間がもったいないということに気づき、そこからは私も臆せず積極的に質問したり、話しかけることができました。

二つ目は、「背景を知ることの大切さ」です。研修の端々で美しいグアムの自然や動物たちとふれあい、異なる文化的背景を持つ人々と交流したことは、生まれも育ちも秋田県の私にとって驚きの連続でとても新鮮でした。なかでも友達になったSeleneとJaneにたくさんのお話を教えてもらい、色々な遊びや食べ物に挑戦した事は印象深い思い出のひとつです。初めて目にする情報や、異文化を学ぶ一方で、日本の文化を相手に発信する機会もあり、相手を知り、自分を知るといった機会が多かったように感じます。特別講義でグアムの環境問題について学んだときは自然の恵みを楽しむ人間としてグアムが直面する資源や環境保護問題の背景を学び、太平洋戦争記念館では戦時下の特異な背景で何が起きていたのかを知ることが出来ました。

三つ目は、「どんな小さなことでも変えられるものがある」です。地元の小学校を訪問したとき、1年生のクラスと一緒に折り紙を折った女の子からお手紙をもらいました。短いけれど気持ちのこもった手紙を読んで幸せな気持ちになりました。連日夜遅くまでプレゼンテーションの準備で、疲れや不安が溜まっていましたが

彼女のおかげで一気に元気になりました。

自分の気持ちを素直に伝えることの大切さ、一歩踏み出して何か行動をおこすことで変わるものがあるのだという事を教えてもらいました。

2週間の研修中はメンバーの皆と生活を共にし、かけがえのない時間を共有しました。「持続可能」とは、平和な国際関係や豊かな自然やおいしいごはんを今度は100年先の人たちとも共有できるかということなのではないかと感じました。そして視野を広めると見えてきたのは自分の知らない世界と自分の根っこだったように感じます。

私は今回の研修を通して自分の背景を知り、行動を起こす勇気をもることが出来ました。「持続可能」な社会を実現することは簡単なことではないと思います。しかし地球に生きるひとりとして、日本人として、チームの一員として、友達として、私自身として行動できることはたくさんあると思います。これからはこの経験を糧に英語や日々の勉強により励み、力をつけていくと共に、まずは身近なところから行動をおこしていきたいです。

最後にお世話になったすべての方々ときっかけをくれたすべてのことに感謝します。





今回の二週間という短い期間の語学留学において、私は様々な衝撃を受け、様々なことを

感じ、様々な事を学びました。

Guam大学の教室に初めて入った時、秋田県立大学と違うなとすぐ気づいたことは、冷房が十分過ぎる程にいきわたっていたということです。教室だけでなく校内のどこに行っても冷房が過度に効いており、外の暑さなど忘れてしまうくらいでした。あらかじめ引率の方々から聞いていた通り、本当に防寒着がいるくらいに寒かったです。また、校内はバリアフリー化が進んでおり、車いすの方が何の支障もなく移動できるようになっていました。扉はボタン式にもなっており、自動で開閉できるようになっていました。

また、しばらく大学に通っていて気づいたことは、校内の庭で多くの学生たちが、遊んだり、食事をしたりと、自由に過ごしていたことです。私たちの大学では、庭でにぎやかに学生たちの多くが交流するなどというのは学園祭のような特別な行事でもない限り見られない光景ですので、とても楽しそうで新鮮でした。

そして、私が一番驚いたのは日本の学校とは相反する授業風景でした。日本の学生たちは、ある一定の歳を境に授業中の積極的な発言が極端に少なくなります。これは、恥ずかしかったり、不安からくるものだと思います。しかし、Guam大学の学生達、つまり海外の学生たちはまったくそんなことはなく、恥ずかしがる素振りどころか、我先にと積極的に発言をしており、教壇に立っている先生の授業を教える形式もまた日本のそれとは異なっており、自前のタンブラーを片手に教壇の周りを常に動きながら、自由に講義を行っていました。日本では授業中は学生も教師も飲み物など飲まない、黒板の前から動かない、というのが一般的です。その環境に影響され、私達も講義の回数を経るごとにその形式に慣れてくると、積極的な発言が出来るようになり、日本のような「静」の授業から「動」の

授業へと変わっていったのを感じました。

プログラムの一環で海に行く日があり、その日は海岸のゴミ拾いや、環境汚染について学びました。そこでは、日本ではあまり聞きなれない、サンゴについても学習しました。Guam近海にはサンゴがたくさん生息しており、観光客に人気のあるビーチにも当然生息しています。しかし、そのサンゴが実はとてもデリケートで、観光客達に踏まれるだけで傷つき、死んでしまうことを知りました。また、水質汚濁もサンゴの死因となります。日本ではめったに見ないので実感がわきませんでした。しかし、実際に海で死んでしまったサンゴを見たことによって、それを実感することが出来、とても心が痛くなりました。

Guamは廃棄物処理施設が十分でないために、土壌汚染や、そこからくる水質汚濁の問題があります。それをいかにして解決するかを私たちは研究テーマとしてGuam大生たちと一緒に考え、レポートにまとめました。

今回の色々な体験を通して、私達は大きく変化したことは間違いないと思います。どう変化したのかは人それぞれ違うかもしれませんが、少なくとも、日本に帰ってから授業に違和感を覚えたのはみんな同じではないかと思っています。私たちの中にある、消極的なところを、この経験を教えることによって少しずつでも変えていけたら良いなと思います。



4. グループレポート

放課後や週末の時間を利用して、グアム市街地に出かけて課外活動を行い、グアムの歴史や、文化体験、ローカルな食文化に触れることができました。

参加した様々な活動の中から、以下の4つの活動についてグループレポートにまとめました。

1. Dededo Morning Market (デデド朝市訪問)
2. Historical Island Tour (グアム島巡り)
3. Chamorro Night Market (ナイトマーケット訪問)
4. Cultural Beach Day (海辺の文化体験)

マーケットの開催日は土日で、地元の人々が個人で出店するフリーマーケットです。ダウンタウンのきれいなショッピングエリアとは一味違って、ローカルの人々が、個人で生産した農産物や魚などの生鮮食品や、BBQ、トロピカルジュースをはじめとするローカルフード、衣類・古着、CD・日用雑貨や家電など幅広く取り扱われていました。

中でも私たちが関心を持ったのは農産物でした。日本で見たことのある野菜もあれば、同じ野菜でも形が違うもの、南国特有のフルーツが数多く屋台に並んでいました。いくつか紹介します。

[写真1]

バナナとナスです。バナナはまだ青く熟していませんでした。ナスは細長く、色つきが均一ではなくまだら模様でした。

[写真2]

グアムの隠れた名産品、カラマンシーです。日本のすだちのようなさわやかな柑橘系の果実です。屋台ではドリンクに使われていました。

[写真3]

フルーツの王様ドリアンです。日本ではめったに見ることはありませんが、南国のグアムでは朝市に並ぶほど一般的な果物のようでした。

[写真4]

スイカ（左）です。かぼちゃ（右）と比べてみると大きさがほぼ同じくらいで、日本のスイカよりも小ぶりでした。また、スイカ特有の黒のギザギザ模様は白くなっており、日本のスイカとは異なっていました。

このように日本と比較してみるとさまざまな違いが見えて、とても興味深かったです。



[写真1]



[写真2]



[写真3]



[写真4]

課外活動 グループレポート： Dededo Morning Market (朝市訪問)

次に、私たちが実際に食べたローカルフードと朝ごはんを紹介します。

◎フルーツジュース (\$4.0)

一番人気はココナッツ (写真右)。タピオカ有無関係なく一律4ドルで 写真はMサイズ。味は2種類の素材から選べました。
(写真左はイチゴとゆず)

タピオカは黒糖入りで甘くておいしかったです。

◎チキンライススープ (\$3.5)

このモーニングマーケットのお店の売り子さん (20~50歳女性) 4人にアンケートした結果、おすすめのフードとしてBBQ、ライススープがあげられました。ライススープは鶏肉のダシと生姜が入った日本のおかゆに近かったです。とてもあつあつで朝に食べたい、目が覚めるような一杯です。値段もお手頃で、おすすめです。なお、このお店のメニューには「特別なスープ」など気になる一品もありました。

このほかにもこの朝市にはおいしそうなものから、不思議なものまで、魅力的なグアムのローカルフードがまだまだたくさんありました。

下の写真のように入り口付近には日本語の案内もあったのでグアムに行った際には是非Dededo Morning Marketを訪れて、様々なローカルフードに挑戦してみてください。



課外活動 グループレポート： Historical Island Tour (グアム島巡り)

森倉 渉太・進藤俊太郎
坂下 友哉・久保 恭平

今回、私たちのツアーをガイドしてくれたのは写真のVictoriaさんです。



18歳とは思えないほど大人びていてとても驚きました。そんな彼女に最初に案内されたのはラッテ・ストーン公園。
進藤俊太郎のレポートです。

ラッテ・ストーン公園は、ラッテ・ストーンと呼ばれるグアムの先住民チャモロ族の古代文化の遺跡がある公園です。かつてのスペインの侵略の結果、今ではラッテ・ストーンの使用目的は分からなくなっていますが、研究者の間では、古代チャモロ文化では家屋が日本の高床式倉庫のようにラッテ・ストーンの上に建造されていたのではないかとされています。グアムではこのラッテ・ストーンが一種のトレードマークようになっており、グアム大学入り口にあるUNIVERSITY OF GUAMの正門の両端にはこのラッテ・ストーンの装飾が施されました。



次に私たちが向かったのはスペイン広場とグアムで初めに造られた教会です。坂下友哉のレポートです。

スペイン広場にはかつてグアムがスペインの統治下にあった時代にスペイン総督邸が作られていたそうです。しかし第二次世界大戦でそのほとんどが破壊されてしまったため今日ではグアム政府によって、破壊された一部の建物が復元されています。そのためこのスペイン広場ではスペインの統治下にあった時代に作られた歴史ある建築物や武器などが残されており見学することができます。このスペイン広場の見学を通してかつてグアムがスペインの統治下にあったという事実を実感しました。またスペイン広場から離れた場所には同じくスペインの統治下時代に作られたというサン・アントニオ橋と呼ばれるアーチ形の石橋もあり見学することができました。



公園のすぐ側には第二次世界大戦時にグアム島を占領・大宮島としていた大日本帝国軍が米軍の空襲に備えて現地人に作らせた防空壕がありました。実際に中に入ると、成人男性が両手を広げても余裕のある広さで、壁にはたくさんの落書きがあり、不気味な雰囲気でした。グアムの歴史が深く刻まれた場所なんですね。昔日本が犯してしまったことについても考えさせられる場所でした。



課外活動 グループレポート： Historical Island Tour (グアム島巡り)

スペイン広場の近くにはグアム最古の教会、聖母マリア大聖堂があります。この聖母マリア大聖堂は「ハガニア大聖堂バリシカ」とも呼ばれグアムで最初に建てられたカトリック教会だそうです。外壁は白く、とても綺麗なステンドグラスが施されていて初めて見る教会の外観に圧倒されました。教会の中に入るとそこはとても静かで厳かな雰囲気にも包まれていました。賑やかなグアムの雰囲気とは対照的な静かで落ち着いた雰囲気を持つ聖母マリア大聖堂がとても印象に残っています。未だにスペインが統治していた時代のものが数多くグアムに残っていることがわかりました。



次はランチとランチ後のジャングル探検です。森倉渉太のレポートです。

みんなのお待ちかねランチタイム！ ビーチ横のベンチで海の風や波の音を聞きながらのハンバーガーはいつもと違った格別な味がしました。量的には、ハンバーガー2個ポテトとナゲットで1人分だったので少し多くも感じましたが、朝早くからRay君がホテルに届けてくれたハンバーガーを残すまいとみんな一生懸命食べました。やはり、メンバー全員で食べることはとても楽しいことです。



お腹が満たされた後、Victoriaの案内で近くのジャングルに探検に行きました。山を登っていくと途中で道が3本に分かれたのでまずは全員で真っすぐの道を選択。階段を下っていくとそこにあったのは周りが木や岩で隠れた小さなビーチでした。男子は丸い石を見つけてきて水切りで勝負が始まり、Victoriaは少し大きめのヤドカリを持ってウキウキしていました。Beach Day Activityの時もそうでしたが、小さな生き物を見つけ捕まえた時、いつもは大人びて見える彼女も無邪気でも可愛らしく感じました。さっきの分かれ道まで戻り今度は右の道に行くことになりました。この道はずっと登りでみんなへとへとになりながらも頂上に到着!!そこには周りに何も遮るものもなく360°見渡せる場所がありとても気持ちよかったです。蒸し暑く、さらに木が生い茂る道を歩いていたのでみんな蚊に刺されながらもリフレッシュでき、グアムの自然を感じる楽しい探検でした。

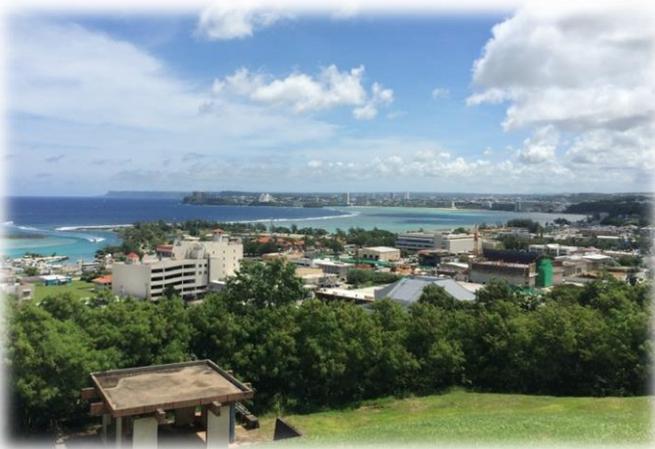
グアムの自然は本当に綺麗でした。旅先で普段は行かないような場所を探検するのも面白そうですね。



課外活動 グループレポート： Historical Island Tour (グアム島巡り)

そして最後はアプガン砦と恋人岬です。
久保恭平のレポートです。

アプガン砦という高台に行きました。別名サンタグエダ砦とも呼ばれています。この砦は、1671年にチャモロ軍の攻撃に備えてスペイン軍が建設したもので、現在は公園として整備されています。大砲のレプリカも設置されていて、300年以上続いたスペイン統治時代の歴史を見ることができました。砦からは海に面したグアムの街並みを一望することができます。夜景も素晴らしく観光地として有名です。



また、砦のそばにはココナッツを売っている屋台があります。ここではココナッツジュースを飲むことができます。飲み終えたココナッツの実を削り、醤油とワサビをかけて刺身として食べることができました。ココナッツにこのような食べ方があるとは知らなくて驚きましたが、食べてみるとマグロのトロのような味がしてとても美味しかったです。



次に恋人岬に行きました。恋人岬からはタモン湾の大パノラマを見ることができます。また、恋がかなうと言われていた伝説の鐘があり、カップルに人気の観光スポットになっています。

グアムの歴史を肌で感じる事が出来るとてもいいツアーでした。案内してくれたVictoriaさん、どうもありがとうございました。



課外活動 グループレポート： チャモロナイトマーケット

木村花菜子・ 齊藤由佳
樋口千晶・ 小笠原あゆみ

チャモロビレッジは通常水曜日の夜に行われる祭りで、観光名所の一つである。なぜ週の真ん中の水曜日に行うのか聞いてみたところほかの曜日だと他の地区の似たようなお祭りと被るから、昔から水曜日に行っている、とのことだった。今のような出店がメインのお祭り形式となったのはここ十年でのことのように感じた。それまでは、農産物の売買がメインの市場だったそうだが、店を出している方たちは、日本語が堪能な方が多くグアムにおける日本人の観光客の多さがうかがえた。

四時過ぎにバスから降りて、チャモロビレッジに入ったときは出店の数も少なく観光客もそれほど多くはなかった。しかし、六時を回った頃から少しずつ人と出店が増えて賑わいを見せていた。

入ったお土産ショップでは、店員の女性は非常に日本語が堪能で、商品の説明をほとんど日本語でしてくれた。お土産ショップでは、地元で作られた工芸品が多く見られた。加えて、本物のココナッツオイルの見分け方(振ると泡が出る)や、財布をリュックの奥に入れてスリに財布を盗まれないようにする方法を教えてくれた。このお土産ショップで、ドリームキャッチャーを友人たちと購入した。ドリームキャッチャーとは、アメリカのお守りで、様々な災厄から身を守ってくれるものである。私たちが購入したのは、亀の形をしたドリームキャッチャーで、お揃いで持つとその友情が続くというものだった。



課外活動 グループレポート： チャモロナイトマーケット

次に、Kris B. B. Qのチキンを食べた。見た目は焼き鳥にしているが、ところどころ黒く焦げていた。味は甘いようなしょっぱいようなタレがかかっており、日本ではなかなか食べられない味だった



ココナツの実を割ったジュースとその実の刺身をわさび醤油で食べた。ココナツの刺身は白くて細長い見た目をしており、味と食感はいかの刺身のようなだった。



七時を回る少し前から、ダンスが始まった。ダンスを踊っているのは地元の方たちで、お年寄りも多かった。ダンスはとてもキレがあり、みんな笑顔で踊っていた。観光客である私たちが参加しても、温かい空気で受け入れてくれて、地元の人たちと共にお祭りに参加できた喜びを感じた。



これからもグアムで、ナイトマーケットというお祭りが益々栄え、人々の笑顔を作り出していくことを願って、チャモロビレッジについての報告を終える。



課外活動 グループレポート： Cultural Beach Day

小熊悠嗣・綿引佑輔
三村 怜・櫻田浩平

2015/9/12 (Sat)

待ちに待ったCultural Beach Day !!
この日は何をするかと言ったら、ココナッツ
キャンディーづくり、ブレスレットづくり、
カヤック体験、バレエなどなど。
わくわくしてきます。



まずはココナッツキャンディーづくり。
気合でヤシの実の皮を剥きます。その後包丁
でヤシの実を割ると、中にはかわいいココ
ナッツが隠れています。そのココナッツを削り
フライパンで砂糖とキャラメライズすると、
おいしいココナッツキャンディーの完成です。
ココナッツそのままでは無味ですが、炒める
不思議にとってもおいしくなります。



次はブレスレッドづくり。プルメリア
(Plumeria) という花を使いました。ちなみに
花言葉は「beauty(美)」「grace(上品)」など
があります。作り方は、三つ編みのような感
じでした。花のブレスレットは南国を感じさ
せてくれます。



お昼はBBQで盛り上がりました。肉がたくさ
んあり大喜び。やっぱりビーチでのBBQは最高
です。



課外活動 グループレポート： Cultural Beach Day



午後は、いよいよ海へ入りました。カヤックに初めて乗る人も多く、わくわくはまだ続きます。しかし途中スコールにあい、視界が悪化。雨がひどい際、船が出航できない理由が分かった気がしました。



大航海を終えると、今度はビーチバレーが始まりました。普段の生活では見られない元気いっぱいのプレーが飛び交いました。自然に囲まれ、手作り感あふれるコートでのバレーは楽しい思い出になりました。



この日わくわくが止まることはありませんでした。グアムでしかできないような異文化体験ができ、嬉しく思います。このCultural Beach Dayなしには、グアム語学研修は語れません。



2015年グアム大学夏期語学研修報告集
編集・発行
秋田県立大学 国際交流室
2016年 4月